香椎花園

幼少期はたくさん遊ばせてもらい学生時代はアルバイトでおつかれさまの言葉を頂きました。香椎のシンボルとして輝き続けてくれた香椎花園。たくさんの思い出をありがとう。そして今度は私から、「おつかれさまでした。」

文：椛島　成敏 保護司　　写真：田中　清実 保護司

# 東風（こちかぜ）

発行責任者
福岡市東区箱崎１－32－１
東保護区保護司会
会長　藤野重久
編集　総務部

## ケース記録から

福岡保護観察所長　南元　英夫

東保護区保護司会の皆様には、平素から昼夜を問わず保護司活動に御尽力くださり、心から御礼を申し上げます。

5月12日（本稿執筆の1週間前）、福岡県に3度目の緊急事態宣言が発せられました。その後予定されていた保護司会総会は軒並み中止となりましたので、早期に開催された東保護区の総会で皆様に直接御挨拶させていただけたのは幸甚でした。

同宣言発令中は、保護観察を受けている人等との面接はできるだけ電話等に代えるなどの対応をとらざるを得なくなりましたが、「人の繋がり」、「対象者への寄り添い」が不可欠な更生保護の現場にとっては非常に悩ましいものです。再犯を繰り返す人の背景には、孤独や社会的孤立があると指摘されています。対人接触をなるべく回避しなければならない今の状況が、保護観察を受けている人たちの孤独を深めてはいまいかと危惧しています。

そんな折、東保護区に係属するケースの記録を読みました。それは、更生保護施設を飛び出した少年が、その後、自立準備ホームで保護され、ホームの副施設長と一緒に保護司宅に来訪を重ねているケースでした。愛情飢餓感が強く、ぶっきらぼうな少年を保護司さんが辛抱強く受容的に受け止めてくださった結果、今では少年が「祖父ちゃん祖母ちゃんの家に来るみたい。」と嬉しそうに来訪して生活上の色々な不満等を吐露するようになっています。奥様の手料理も効果絶大なようで、毎回「バリウマ（美味し過ぎる）」と頬張っている少年の気持ちがこちらにも伝わってきて胸が熱くなります。2度目の緊急事態宣言中、通信による接触が続き、明らかに少年が不安定な様子となった折にはすぐに面接（来訪）に切り替えておられました。保護司さんの（ご夫妻による）臨機応変、適時適切な対応ぶりには脱帽です。

保護司の皆様、ご家族の皆様には大変御苦労をおかけしますが、引き続きよろしくお願いいたします。

### 保護司信条

私たち保護司は、社会奉仕の精神をもって
一、公平と誠実を旨とし、過ちに陥った人たちの更生に尽くします。
一、明るい社会を築くため、すべての人々と手を携え犯罪や非行の予防に努めます。
一、常に研鑽に励み、人格識見の向上に努めます。

# 「東風」のあゆみ
## ― 第50号記念　時代をふりかえって ―

**第22号**
**平成19年**
**7月1日発行**
学校との連携シリーズが始まる

**第11号　平成14年10月1日発行**
4代目会長の井上俊男氏 就任あいさつ

**創刊号**
**平成9年10月1日発行**
東区保護司会（現東保護区保護司会）発足25年にあたり、今やっていることを後世に残していきたいと機関紙を発行

東区より更生保護の風を吹かせようと名称は「東風」

題字は創刊号時の会長である今林定信氏によるもの
現在も使われている

**第23号　平成20年1月1日発行**
カラー刷りに　冬号は、6ページになった

**第19号　平成18年3月30日発行**

**第30号**
**平成23年7月1日**
**発行**
東区が当番だったので多くの保護司が参加した

**第36号　平成26年7月1日発行**
現会長　藤野重久氏

**第33号　平成25年1月1日発行**
三苫奈多海岸での社会参加活動

**第28号　平成22年7月1日発行**
松本多喜男氏による巻頭言　5代目会長就任

**第38号**
**平成27年7月1日**
**発行**
シリーズ「多機関連携を目指して」と「サポートセンターだより」開始

**第43号**
**平成30年1月1日**
**発行**
“ひろば”にて、分区日記「東風吹かば。」を始める




**第47号**

## 保護観察のレポート

# 観察期間内での対象者との死別

第２分区　Ｉ・Ｙ

昨年の10月、コロナ禍の中、４号観察中の対象者が35歳の若さで突然亡くなった。仕事帰り近くのコンビニ駐車場で倒れ緊急搬送されたのである。

所持品の中に、私の名前や携帯番号が記載されている保護観察用の訪問カードがあったため、深夜午前零時ごろ東警察署より一報を受けた。家族及び勤務先に連絡を取りたいので、知っている情報を教えてほしいとのことで取り急ぎ駆け付け情報の提示をしたが、遺体がまだ病院とのことで一旦自宅に戻った。2時間程して連絡が入り、本人確認の要請のため再び出向く。警察署の裏側にある安置所に案内されたのだが、そこで目にしたものは、遺体が納められているグレーの袋であった。ファスナーが下ろされ顔を見て、対象者本人であることを確認した。元来、心臓に疾患を抱えていたことは本人から聞かされ承知していたものの、口と鼻からおびただしい出血の後が見られたため死因を究明したところ、大動脈解離により心臓の血管が破裂したためと説明を受けた。警察官より事件性はないとのことだったが、本人が居住しているアパートを検証したいので立ち会ってほしいとの要請を受け、翌日アパートの前で待ち合わせをすることとなった。過去何度か往訪したことはあったが、その時もかなり散らかしていたので指導はしてきたが、今回久し振りに部屋を覗いて驚愕した。ドアを開けると足の踏み場もないくらいゴミが山積し悪臭が漂い、壁にはゴキブリが這いずり回っている。よくこんな環境で生活していたものだと思わされた。

対象者とは、４年間の観察期間内の2年8ヶ月を付き合ってきた。日雇いの土木に精を出していたが、天候とコロナ禍で仕事が無い日も多く、食事も毎日3度食べることも間々ならず、いつもお金に困窮していた。面接の来訪日には、毎回ではないが食事を一緒にし、カップ麺等を持たせ、衣類も私の古着ではあるが夏物、冬物を渡すと喜んでくれた。又、低額医療制度の申請に協力もした。真夏のコロナ禍の厳しい中、主任官にも同行を願い、生活安定のため自立支援施設の面接等や生活保護の申請について支援してきたが、頑なに拒んだ。これ以上社会に甘えずにいたかったのだろうか。

故郷の母親へ事の子細を伝え引取りのお願いをしたが、「そちらでお願いします。」との言葉に、家庭や社会で居場所を失い絶望感の中で生きてきたのではと思うとやり切れないものが込み上げてきた。

私たち保護司は、観察所から提供される調書で本人が育った環境や境遇を知る。しかしそれ以上に、もっとそこには計り知れないものがあると改めて感じた。

これから先も、私はたくさんの対象者と関わっていくだろう。今回の経験を活かし、より良き保護観察ができればと思っている。

※本事例については、プライバシー保護の観点から個人を特定できないよう、内容の一部を変更しています。

## 新担当保護観察官紹介

保護観察官　瀬﨑　康広

今年の4月から東保護区1、2、3分区を担当させていただいております。

私は出身が南区であるため、幼少期の頃の東区にある貝塚公園や和白干潟での思い出が今でも鮮明に残っています。当時と比べ、照葉地区や千早地区等新しくなった地区がある一方で、箱崎地区のように昔ながらの風情が残っている地区もあり、思い出が蘇りました。今年度からお世話になる東区の更生保護に携わらせていただき、とても嬉しく思います。

先生方のお力を借りながら、ケースに向き合い、頼りにしていただける観察官になれるように尽力したいと思っております。どうぞよろしくお願いします。

## ＢＢＳ会と保護司との座談会

総務副部長　古閑　幹子

東保護区保護司会と情報交換を是非、と「福岡市ＢＢＳ会」の邉（ほとり）会長から協力組織部長の宮﨑保護司に依頼があり、3月12日、8年半ぶりに座談会が開催されました。

ＢＢＳ会からは3名。保護司会からは藤野会長・吉村副会長を始め9名の参加で、互いの組織や活動を知ることで、今後の更生保護活動の向上に生かしていければ、というのが今回の目的です。

まずは、ＢＢＳ会から話してもらいました。現在の福岡市の会員は約30名。

活動内容は、一対一での友だち活動・グループワーク（イベントを通して少年たちと接します。でも、昨年はコロナで自粛せざるを得ませんでした。）・研修会・社会貢献活動等への参加協力です。次に保護司会からも、冊子「保護司というボランティア」を見てもらいながら、組織や活動内容を説明。又事例を通してＢＢＳ会への要望を伝えました。

最後に、ＢＢＳ会の今後の想い等を聞かせてもらいました。まず邉さん。コロナが落ち着いたら、保護司会等ともっと繋がりを持って活動したいと思います。次に山﨑さん。今まで「分区って何？」のレベルでしたが、保護司会のあり方等、もっと勉強していきたいと思います。最後に一ノ瀬さん。今春大学卒業で社会人になりますが、この活動が生かせたら、と思っています。

初々しい中でもきっぱりとした考えを持った3人に感服。この若い力と共に活動し、どういう形で連携していくのかを探り、そしてこれが対象者の更生に繋がる事を期待します。

# 第23回　令和３年度 定例研修会及び定例総会

東保護区保護司会では、４月22日（木）福岡リーセントホテルにて、定例総会等を開催いたしました。コロナ禍ではありますが、昨年に続いての書面評決は避けたいとの思いもあり、感染対策、ソーシャルディスタンスをしっかり守った会場設定のもと、行いました。

まずは昨年10月以来の定例研修会です。「ＣＦＰ導入後の変更となった、関係書類の見方・書き方」について、瀬﨑康広観察官から講話がありました。

研修会終了後は、当会保護司69名の参加での定例総会です。例年だと多数のご来賓をお迎えしていましたが、今回は人数を制限せざるを得ず残念でした。議案に関して、活発に質問・意見も飛び交い有意義な総会だったと思います。

本来ならば、総会後に情報交換会があるのですが、このような状況ではもちろん自粛です。

早く日常に戻り、例年通りの会が開かれることを期待しています。

定例研修会の様子

# サポートセンターだより

総務部長　田中　清実

東保護区保護司会事務所である更生保護サポートセンター（以下サポセンといいます。）は、平成24年４月に設置され10年目を迎えます。それ以前は会長の自宅が事務所でしたが、当時の松本多喜男会長がご尽力をされ、まずは広さ約４坪の事務所が設置されました。しかしここでは、保護司が一人勤務すれば一杯の広さでした。

それから１年後、約50メートル西側の現在地にサポセン（約22坪）が移転しました。周囲にはお寺が散在し、筥崎宮から北側へ約４００メートルの所で、前の道路は黒田長政公が参勤交代で江戸へ向かう際に通った唐津街道です。また、近くに黒田藩の別邸があり、当時はよく黒田の殿様が通われたそうです。

サポセンは、対象者との面接や関係機関の交流の場や新任保護司の相談の場などで利用しています。新型コロナウイルス感染防止として、入口に除菌液、検温器や除菌付の空気清浄器を設置し、また事務所奥の面接するテーブルには手製のビニール製遮蔽板が置かれています。コロナ禍の中で活動が自粛されていますが、保護司等が利用できる拠点となっています。

時々、元保護司の方が顔を出され励ましの声かけをしてくださいます。皆さんもどうぞサポセンに立ち寄って下さい。

# 「星の王子さま」と保護司

総務部　吉武　輝実

「ガラン・ガラン」「パン・パン」二礼二拍手一礼、言うまでもなく私達が神社にお参りする時の作法である。初詣で家族や自分の健康・仕事や商売繁盛など沢山の欲深い願い事をした筆者だが、私以外にも願い事の満載人は多いのではないだろうか。

私たちの住む東区には、いにしえよりの神社がいくつもある。日本人が古来より恐れ敬ってきた森羅万象を八百万の神様に願い、その内容も千差万別、人によってさまざまであり形がない。目に見えるものはなく古代より自然を敬い家族、友人、隣人を大切にして五穀豊穣・家内安全・子孫繁栄などを氏神様に祈願してきた。目には見えない、日本人が大切にしてきた『まごころ』や『思いやり』・『感謝のこころ』がそこにはあり『絆』を尊び社会奉仕など『責任』を果たすことによって地域社会を発展させて来た。

その目には見えない日本人のこころに箱根の『星の王子さまミュージアム』で出会った。その時見たものは滞在時間が二倍になるほど衝撃的でアメージングであった。

「心で見なくちゃ、ものごとはよく見えないってことさ。かんじんなことは、目に見えないんだよ」これはキツネが王子さまに言う有名な言葉である。バラの面倒な要求に振り回される王子さま、しかし振り回されながらも世話をすることで絆が生まれる。バラにかけた愛情や時間は目には見えず心でしか見えないのである。そしてそのつながりに対して責任をもって生きていこうと王子さまに教えてくれている。私たちが古来より目に見えないものを大切にしてきた日本人のこころと同じ世界観を作家のサン＝テグジュペリは持っていたのだ。そして物語の中でキツネが王子さまに言ったこの言葉は、対象者との関係づくりに苦慮している保護司と同じと思えて仕方がなかった。

面談に来ない、約束の時間を守らないなど自分勝手な傾向でものごとを見がちな対象者もいる。そんな彼ら彼女らに保護司は、目に見えない多くの人に支えられていることを気づかせ、何度振り回されようと対象者にかける愛情や時間を本当に大切なものとして見つけていかなければならないと思う。その事にあらためて気づかせてくれる印象深い箱根での一日であった。

福岡市保護司会連絡協議会主催で、右記講演会と上映会がなみきスクエアホールにて開催されます。入場無料ですが、事前に申込みが必要です。

参加希望の方は、東保護区保護司会に申し出て下さい。

（092－409－0241）

シリーズ 多機関連携を目指して 13

# 福岡少年院と保護司会の連携

福岡少年院長
渡辺　玲子

福岡少年院は、昭和13年に福岡県連合保護会「至正塾」を前身として、全国で４番目に設立された男子少年院です。敷地は、老司古墳に隣接し、緑豊かで鳥のさえずりが絶えない、美しい自然に恵まれた土地です。主に九州内の家庭裁判所で少年院送致決定を受けた少年を収容し、矯正教育と社会復帰支援を行っています。

少年院にやってきた少年たちには、一人ひとり、それぞれが抱えた課題に対応した教育計画が立てられ、少年たちは大半が概ね11か月の期間をかけて、自分の人生の立て直しに取り組みます。

人を騙して金品を奪ったり、大麻を使用したり、人を傷つけたりしてきた少年たちが、これまでの自分のあり方を振り返り、改めて、勉強したり、体を鍛えたり、仕事の技能を学んだり、物の考え方伝え方などを身につけたりして、自分を構築し直していきます。出院する頃には、視野も広がり自信もついて、将来に展望を持つようになり、見違えるような顔つきになって帰っていきます。

社会の方々からは、「少年院でいくら良くなっても、以前と同じ環境に帰ったら、再び悪くなるんじゃないですか」と言われることがあります。確かに、どんな環境であっても、よりよい人生を選択できる力をつけるのが、少年院の役割です。私たちは、生活環境調整の情報から、地域の空気や引受け家族の置かれている現実的な状況を把握し、本人に必要な社会復帰の準備をより具体的に行っていきたいと考えています。

もちろん、社会に帰ってちゃんとやっていけるのか、自分の居場所はあるのか、不安の絶えない少年にとって、保護司の先生の励ましや応援の言葉は、何より大きな力の源になります。

犯罪や非行は、信頼の病です。少年たちが人を信じ、健全な社会の一員になるよう、共に支えていきましょう。

福岡少年院外観

## ひろば

### 「感謝のこころ」

第1分区　高木　建次

これまで27年間消防団員として地域活動に参加していましたところ、今回保護司へのお誘いを頂きました。活動の場は違えど、今の自分に出来る事があればとお引き受けさせて頂きました。

これまでの出合いの中で、たくさんの経験と知識を学ばせて頂きました。出合った方への感謝のこころを持ちつつ、対象者の心情に寄り添える保護司を目指し精進していきたいと思っております。それと共に皆様と手を携え、地域社会の犯罪抑止・安心安全な地域づくりのお手伝いが出来るよう取り組んでまいります。これからの活動を通して私自身も勉強出来ればと思っております。

皆様方からのご指導ご教授を賜れますよう、どうぞよろしくお願いいたします。

### 「地域をつなぐ保護司」

第2分区　斉藤　昌平

「まちづくり」みたいなことに関わって20年ほど経ちました。飲食店やお祭りなど、賑わいを生む企画、設計や運営を中心に、場づくりハコづくりを重ねる中で、ずっと気にかかってきたことがありました。ハレの場所から見えないまちの課題。これまで見てきたコミュニティからは切り離されてきたのかもしれない部分。そんなタイミングで、保護司のお声がけを頂きました。私如きに務まるかと怯む気持ちもありましたが、同じまちにいる人それぞれ事情があっても、誰もが風通しよく暮らす一助になりたい、との思いでお受けしました。

更生（更に生きる）の意味を、関わる方々と共に考えながら活動して参る所存です。何卒よろしくお願い申し上げます。

### 「明るい街づくりのお役に」

第4分区　松本　聖治

この度、保護司を務めさせていただくことになりました松本聖治と申します。

自治会の田中会長から保護司のお誘いを頂きましたが、全く知識が無く、とても私に出来るか不安でしたが、詳しく説明をお聞きして、少しでもお役に立てればとの思いでお受けさせていただきました。

これから研修会に参加し、しっかり勉強をして地域に貢献できるように精進してまいります。先輩の保護司の方々からご指導をいただき経験を積んでいき、対象者が立派に更生していくことを願っています。

まだまだ未熟者ではありますが、一生懸命取り組んでまいりますので宜しくお願いいたします。

## 「新任保護司の委嘱を受けて」

第4分区　廣瀬　建志

本年4月から保護司を務めさせて頂いている廣瀬と申します。

5年前までは警察官として勤務し、定年退職後は大型商業施設で保安の仕事をしておりました。警察官時代は保護司さんと連絡し合う事もあり、その大変さは知ってはいましたが、まさか自分が保護司になるとは思ってもいませんでした。

警察では、罪を犯した者及び非行少年に対しての逮捕等から入り、取調べを行う中で更生に導きます。一方保護司は、対象者の再犯再非行の防止という観点から更生させるという側面があります。過去の経験を活かし、対象者が善良な社会の一員となる様に導いていこうと考えています。

まだ始まったばかりですが、精一杯頑張りますので皆様のご指導、よろしくお願いいたします。

## 「父の背中を見てきて・・・」

第6分区　裏辻　ともこ

この度、新しく保護司を務めさせて頂きます裏辻ともこと申します。

私は地域で新体操の指導をしながら、お寺の仕事と子育てに奮闘している毎日です。はじめにお話を頂いた時は、私にこの仕事との両立が務まるのかという不安もありました。

しかし、私は小学生のころから父の保護司としての活動の様子を見ており、いつもどんな来訪者にも優しく接し、傾聴している様子などを垣間見ていました。そのような父の姿を見て、今の世の中において保護司の活動は大変重要なことではないかと感じ、この仕事を拝受いたしました。

自身もまだまだ未熟ではありますが、対象者のよき支援者となれるように努めて参りたいと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

## 博多にわか

『盗　塁』

ホークスの選手ナ　走塁意識の高かネ～

そうタイ　盗塁しようちゃクサ　周到（周東）な準備バしとう

『香椎花園』

おいさん　お孫さんバ連れて　何処イ行きよんなあとですナ～

それがクサ　遊園地に連れて行くとイまごつき（孫付き）よりますと

ばってがクサ　あらっけなかしこ　お菓子バ持っていきよござ～が　遊園地に売りよりまっしょ～モン

それがタイ　今から行く所が　香椎花園（菓子貰えん）

箱崎ぼーすくてい

## 分区日記　東風吹かば。

### 連帯感と団結力

第６分区　井上　満春

立花の七つの峰からの朝日を眺め、樹々の多彩な緑のコントラストを楽しみ又、白砂青松の奈多や三苫の海岸、そして、志賀島の水平線に沈み行く夕陽の神秘さを感じ、この自然豊かな恩恵を貰いながら生活を楽しんでいる６分区の19名（男性15名と女性４名）のメンバーです。

と同時に、人情味溢れる和白地区の風土の中で地域社会の諸々の活動に参加しながら保護司活動を実践しています。月1回の定例会での活動報告や対象者に対しての情報や意見交換を行い、問題解決の手掛かりや方向性等が見えれば一歩前進だと思います。

６分区に於いて、特筆すべきは「連帯感と団結力」の気持ちの共有ではないでしょうか。ある時は、健康と趣味の追求でスポーツ（ゴルフ）を楽しみ又、宴を通して、先輩諸氏を交えての楽しい語らいのひと時を過ごし、融和を図り、親睦を深めている次第です。

西戸崎シーサイドＣ・Ｃ

公私共に、「忙中忙あり」の毎日を過ごされているメンバーの皆様と一緒に保護司の実践活動を通して、地域社会の一員として「一隅を照らす」存在でありたいと念じて邁進したいと考えています。

## 保護司異動

**退任保護司**

第1分区　北﨑　秀男
第2分区　來嶋　享子
第6分区　安河内　福雄
（令和3年3月27日付）
第6分区　長濱　信二
（令和3年3月31日付）

永い間のご尽力御苦労さまでした。

**新任保護司**

第1分区　高木　建次
第2分区　斉藤　昌平
第4分区　廣瀬　建志
第4分区　松本　聖治
第6分区　裏辻　ともこ
（令和3年3月28日付）

みなさんよろしくお願いします。

## 編集後記

私が生まれてきた訳は　父と母とに出会うため～さだまさしさんの「いのちの理由」の一節です。

編集会議で、保護観察中35歳の若さで旅立ったAさんの事を知り、この歌詞と共に様々な思いが心の中を巡りました。しあわせになるために誰もが生まれてきたんだよ　悲しみの花の後からは喜びの実が実るように～と歌は続きます。命が尽きても故郷で安らぐ事も許されなかったAさんが、保護司との出会いでほんのひと時でも心が和んだ事を信じたいです。

「東風」は50号と節目を迎えました。私にとって与えられた立ち位置を改めて考えさせられた記念号でしたが、皆様は如何でしたでしょうか。今後も編集委員一同、新たな記事に取組んでいきたいと思っています。

（渡部）